

2026 年 9 月 1 日

2026 年度 人事・採用担当者向けアンケート調査の結果

東北福祉大学キャリアセンター

1. はじめに

本調査は、東北福祉大学の卒業生が社会人として求められる能力をどの程度備えているかを評価することを目的として、事業所の人事・採用担当者に対してアンケート調査を実施した。調査は別紙卒業生アンケートと同時期に 2 事業所の人事・採用担当者に対して行い、5 件 (N=5) の回答が得られた。以下、回収されたデータに基づき集計・分析を行った結果を報告する。

2. 調査結果

2.1 卒業生の能力評価 (全 13 項目)

アンケートの結果、東北福祉大学の卒業生に対する評価は総じて高く、全項目において過半数以上が「優れている」または「やや優れている」と回答した。項目ごとの評価の傾向は以下の通りである。

① 特に高い評価を得た項目 (「優れている」が過半数)

- ・ 専門分野の知識・技法・技術 : 「優れている」 60.0% (3 件)、「やや優れている」 40.0% (2 件)

→ 専門的な知識や技法、技術において非常に高い評価を得ている。

- ・ 幅広い知識や教養 : 「優れている」 60.0% (3 件)、「やや優れている」 40.0% (2 件)

→ 学問的基盤や教養の面でも高い水準を備えていると評価されている。

- ・ 周囲と協力して物事を進める力 : 「優れている」 60.0% (3 件)、「やや優れている」 40.0% (2 件)

→ チームワークや周囲との協調性において高い評価を得ている。

② 安定して高い評価を得た項目 (全員が肯定評価)

- ・ 周囲と円滑にコミュニケーションする力 : 「優れている」 40.0% (2 件)、「やや優れている」 60.0% (3 件)

- ・ 論理的に思考する力 : 「優れている」 40.0% (2 件)、「やや優れている」 60.0% (3 件)

- ・ 主体的に行動する力 : 「優れている」 40.0% (2 件)、「やや優れている」 60.0% (3 件)

- ・ 多様性に関する知識・多様な考えを受け入れる力 : 「優れている」 40.0% (2 件)、「やや優れている」 60.0% (3 件)

- ・ 課題の解決に努める力 : 「優れている」 20.0% (1 件)、「やや優れている」 80.0% (4

件)

- ・ 社会の中で自立する力：「やや優れている」100.0%（5件）
- ・ 継続して学び続ける力：「やや優れている」100.0%（5件）

③ 一部で改善・伸び代が示された項目（「やや劣っている」が含まれる項目）

- ・ プレゼンテーション力：「優れている」20.0%（1件）、「やや優れている」60.0%（3件）、「やや劣っている」20.0%（1件）
- ・ 新たな課題を発見する力：「優れている」40.0%（2件）、「やや優れている」40.0%（2件）、「やや劣っている」20.0%（1件）
- ・ 強い信念を持って自らの人生を切り拓いていく力：「優れている」20.0%（1件）、「やや優れている」60.0%（3件）、「やや劣っている」20.0%（1件）

2.2 学生時代に取り組むべき活動（複数回答、N=5）

学生が大学時代に取り組むべき活動についての回答結果は以下の通りである。

学業：100.0%（5件）

趣味の活動：80.0%（4件）

部活動・サークル活動：60.0%（3件）

アルバイト：60.0%（3件）

インターンシップ：60.0%（3件）

ボランティア活動：40.0%（2件）

すべての事業所が「学業」の重要性を挙げているほか、趣味や部活動、アルバイト、インターンシップなど、多様な経験を通じて自己管理能力や人間性を育むことが求められている。

2.3 学生時代に身につけてほしいこと（複数回答、N=5）

卒業生が在学中に身につけておいてほしいこと・経験についての回答結果は以下の通りである。

学業：100.0%（5件）

インターンシップ：100.0%（5件）

部活動・サークル活動：60.0%（3件）

アルバイト：60.0%（3件）

ボランティア活動：60.0%（3件）

趣味の活動：60.0%（3件）

留学：40.0%（2 件）

「学業」に加えて全員（100%）が「インターンシップ」を選択しており、在学中からの社会・実務体験に対する期待が非常に高いことが示された。また、ボランティア活動や留学など、課外での多様な体験に対する期待も広がっている。

3. 結論

調査結果から、東北福祉大学の卒業生は社会人としての基礎的な能力において全体的に高く評価されていることが確認された。特に「専門知識・技術」「幅広い教養」「周囲と協力する力（チームワーク）」については全体の 6 割で「優れている」との高い評価を得ており、企業の求める人材像に合致している。

一方で、「プレゼンテーション力」「新たな課題を発見する力」「自らの人生を切り拓く力」においては一部で「やや劣っている」との回答もみられ、さらなるスキル向上の余地が示唆された。

また、大学生活で期待される取り組み・経験としては、「学業」の徹底に加え、「インターンシップ」の重要性が全員一致で挙げられた。今後は、学業での専門的知識の育成を図りつつ、インターンシップをはじめとする実践的な機会を積極的に提供することで、課題発見力や発信力（プレゼンテーション力）、主体性を一段と養う教育支援が期待される。

2026 年 9 月 9 日

2026 年度卒業生アンケートに関する事業所人事担当者へのヒアリング内容について

東北福祉大学キャリアセンター

2026 年度卒業生アンケートに協力いただいた人事・採用担当の方を対象に、アンケートの分析を受けて 2026 年 9 月上旬にヒアリングを行った。

<協力事業所の概要>

協力をいただいたのは 2 事業所で、各事業所の概要は以下の通りである。

A 事業所は、仙台市を中心に高齢者福祉に注力し、複数の法人でのグループを形成しながら、宮城県内においてデイサービスやグループホーム、介護老人保健施設など地域に密着した事業を展開している。

B 事業所は、電子精密部品の製造をメインに 1970 年代末に山形県内で創立、80 年代初頭から注力したソフトウェア事業部門が独立し現在に至る。福祉・医療全般にわたるオリジナルソフトウェアを開発するメーカーとして、単体で約 600 人の社員が在籍、山形本社を含め北海道から沖縄まで全国 20 を超える開発拠点・営業所を有する。

<A 事業所へのヒアリング内容>

1、卒業生アンケートの集計結果について

分析の結論にあるように、主体的に行動する点においてももう少し頑張ってもらえるのではないかと感じる。これは東北福祉大学の卒業生に限らず、新卒で入職する学生・生徒全体に言えることでもある。

また、インターンシップが重要との記載があるが、「実習だけでは足りない」と思える学生がどれだけいるか。インターンシップなどで「社会人として働くこと」を知る機会があれば、また新たな気づきを得られると感じる。社会福祉士等相談職希望者においては入職後、自身の理想と現実のギャップに苦しんでいる姿も見受けられる。3 年次以降は実習等で学業が忙しくなると思われるため、2 年次までにインターンシップなどで「実際を見てみる」と良いのではないか。

2、在籍する本学卒業生の特徴、活躍する卒業生の特徴について

真っすぐに謙虚、一生懸命である。やりたいことや理想があり、しっかり芯を持っているように感じる。その反面、控えめであり、発信することが苦手である。活躍す

る卒業生の特徴は、自ら発信でき、調整ができる人である。自ら仕事の楽しみを見つけられる人で、様々な視点や観点を持ち、前向きでマイナス志向にならず発想の転換ができる人が入職して成長している。

3、新卒採用で重視していること

利用者と関わることがメインの業務のため、対象者との関係性を大事にできそうかどうか、である。そのため、発する言葉や眼差し、雰囲気など人と接するときの姿勢を重視する。私たちがいいな、と思うだけでなく、学生側からもいいな、と思われているか。お互いに見て、見られての関係の中で対話を大事にしている。やりたいことがしっかりあるか、対して採用側がマッチングできているか、がポイントである。

4、今後東北福祉大学の教育に期待すること

やりたいことや好きなことを聞くと、全般的に「分らないです」と答える学生が多い。「こう思う」や「好きだ」を持っていないように感じる。様々な機会から体験・経験をする中で、「自分を知る機会・体験」が大学時代にあると良いと感じている。発信する場面をつくることも良いし、社会に出ることへの想像ができる機会を与えることも良いのではないかな。

<B 事業所へのヒアリング内容>

1、卒業生アンケートの集計結果について

東北福祉大学での学びが活かせる職場であると実感できた。社会福祉士の資格を取得している社員は、福祉分野に関する基礎知識を持っていることから、顧客である福祉事業所との関係構築もうまく、資格課程の学びもメリットになると感じた。東北福祉大学の学生は、比較的落ち着いていて控えめな人が多い印象があり、当社の社風には合いやすいと感じる。一方で、当社としては積極性やチャレンジ精神のある人材も求めているため、控えめで慎重な姿勢を持ちながらも、自ら考えて行動できる自主性・積極性を備えた人材が増えることを期待している。

2、在籍する本学卒業生の特徴、活躍する卒業生の特徴について

真面目である。会社や組織に貢献したい、という気持ちを感じる。一方で「自分で任されたことをしっかりやらないといけない」と抱え込み、難しく考えている様子も見られるので、パンクしないか心配になるときもある。コミュニケーションを円滑に取れる人も多く、福祉関係の知識を持っていることも業務においてアドバンテージがあると感じる。活躍しているのは、積極的に発言し、周りが見えている人。自分のこ

とだけに囚われず、周囲のことを考えて声をかけながら行動できる人はマネージャーとなっている。福祉関係のソフトウェアを展開する事業の中で、福祉業界に携わり「人を支える」ということが、(卒業生の) やりがいにつながっているのではないか。

3、新卒採用で重視していること

開発も営業もサポート職も、誠実さがベースの人間力が大事。採用試験で個人面接だけではなく、グループディスカッションを実施しており、そこで「誠実さ」「自分の気持ちを自分の言葉で伝えられるか」「積極性やチャレンジ精神」などを見ている。自分に起きた出来事から「何を学んできたのか」を語れること、事象を素直に受け止めて力に変えられることが大事である。また、資格やスキルも大事だが、介護業界のためにどれだけ頑張れる気持ちがあるか、約束やルールを守れるかといった信頼関係を築くうえで基本となる姿勢も重視している。

4、今後東北福祉大学の教育に期待すること

「外」で学ぶ機会が多くあると良いのでは。フィールドワーク等で現場に触れたり、同世代以外とコミュニケーションを取ったりすることは、(社会に出る前段階として) 圧倒的に学ぶことが多い。外部と関わると社会の常識にも触れることができる。また、AI が使える時代の中ではあるが、自ら課題を見つけて考える力、発信する力が身につくと良いと感じる。やりたいことがなかなか見つからない学生も多いと思うが、キャリアセンターを使いつつ情報収集と機会を探し様々な体験をしてほしい。

<まとめ>

アンケート結果同様、学生時代の社会体験（実習、フィールドワーク、インターンシップ等）が非常に有用であるとの意見が共通している。本学でも資格職養成課程での各実習や福祉行政学科等のプロジェクト実践活動、選択科目の就労実習など学外での活動の場を設けているが、正課・正課外の教育において、今後も広く社会体験ができる場を学生に提供していく必要がある。また、学びで得た知見や経験に基づく価値観、社会課題に対する解決案を自らの言葉で論理的に他者へ伝える力も求められている。日々の授業での発表や支援部署での対話を通したトレーニングなど学生個人の自己理解や意思表示の場が必要であると考えられる。